

Mika Akesaka, Nobuyoshi Kikuchi, "The Effects of Gender-Specific Local Labor Demand on Birth and Later Outcomes", ISER Discussion Paper No.1153.

日本語要約

本研究は、妊娠中の景気状況が、新生児および乳幼児の健康状態に与える影響を分析した。景気状況の指標には、Bartik 型の男女別予測雇用成長率を使った。これは各都道府県の雇用における産業シェアと各産業の雇用成長率から計算される。そこで、従事する産業構成が男女で異なることを利用し、男女別の労働需要変化の影響の異質性を検証した。21世紀出生児縦断調査のマイクロデータを使った推定の結果、妊娠中の労働需要の上昇は、統計的に有意に早産や低出生体重のリスクを上昇させることができた。但し、この影響は、女性に対する労働需要の変化についてのみ観察され、男性には見られなかった。また、妊娠中の労働需要と、子どもが1歳から4歳の時の健康や発達状況には、統計的に有意な相関が見られなかった。都道府県単位のパネルデータによって、労働需要の変化が出生率や新生児・乳児死亡率に統計的に有意な影響を与えないことを確認した。